

会 議 録

1 会議名

平成 30 年度第 2 回上越市地域公共交通活性化協議会

2 議題

(1) 協議事項

議案第 1 号 次期上越市総合公共交通計画の策定について

(2) 報告事項

報告第 1 号 平成 30 年度公共交通利用促進事業の進捗について

報告第 2 号 中郷区乗合タクシーのダイヤ見直しに関する検討状況について

3 開催日時

平成 30 年 10 月 1 日（月） 午後 1 時 30 分から 3 時 30 分まで

4 開催場所

上越市役所 4 階 401 会議室

5 傍聴人の数

1 人

6 非公開の理由

なし

7 出席した人

委 員：塚田弘幸、大谷一人、北嶋宏海（代理：松縄麗）、白石雅孝（代理：田村治）、広幡宗俊、板垣島美子、梅本博文（代理：安藤達弥）、萩原寿彦（代理：斎藤龍夫）、伊藤芳武（代理：大島真一）、上原みゆき、小林徹、大堀みき、関谷浩、古田芳久、小口幹久、志村喬、岡田雅美（代理：今井英幸）、松永康夫、池嶋聖也、松永剛、井藤太亮

事務局：佐藤課長、今井副課長、笛田主任、町田主任、畑山主事、横木主事（新幹線・交通政策課）

関係課：高波義明（市民安全課）、佐藤哲（共生まちづくり課）、田村一江（福祉課）、丸田和之（高齢者支援課）、森田睦（健康づくり推進課地域医療推進室）、水澤一彦（産業振興課）

8 内容

1 開会

(事務局) (開会のあいさつ)

2 会長挨拶

(塚田会長)

委員の皆様におかれましては、ご多用の中ご出席いただき、誠にありがとうございます。

当初8月28日に当協議会を開催する予定でしたが、災害対応のため延期させていただきました。皆様には、急なご連絡となりましたが、ご理解いただきありがとうございます。

当日は、大雨の影響で、在来線では、普通列車が56本、特急列車が4本運休したほか、道路の冠水により、路線バス19本、高速バス1本が迂回して運行したと各交通事業者から伺っております。

さて、今年の夏は、水族博物館うみがたりの開業を契機に、各交通事業者が企画切符を販売したほか、乗車体験キャンペーンやスタンプラリーを通じて利用促進にも取り組まれました。うみがたり開業や利用促進による効果で、公共交通の利用が増えていると伺っており、詳細については、後ほど事業者の皆様からご報告をいただきたいと思えます。

秋の利用促進としましては、9月15日に「バスの日フェスタ」が開催され、多くの皆さんからご来場いただいたほか、来週13日土曜日には「なおえつ鉄道まつり」が開催されますので、このような公共交通に関するイベントを通じて、公共交通に対して関心をもってください、将来の利用につなげていきたいと考えております。

さて、本日の協議会には、協議事項が1件、報告事項が2件提案されております。

協議事項につきましては、次期上越市総合公共交通計画の基礎データとするため、今年の3月に実施した公共交通に関する市民アンケートの結果について報告があります。このアンケート結果を踏まえ、次期計画に反映すべき点や更なる調査・分析すべきポイントなどについてご意見をいただければと思えます。

また、報告事項につきましては、公共交通利用促進事業の進捗状況と中郷区を運行する乗合タクシーのダイヤ見直しについてであります。

委員の皆様におかれましては、それぞれの立場から公共交通に関する意見や提案を寄せていただき、各種事業や計画に反映できればと思っておりますので、よろしく申し上げます。

(事務局) 委員の変更についてご報告します。7月1日付けの人事異動により、

東日本旅客鉄道株式会社新潟支社企画部長の石塚委員に代わり、新たに総務部企画室長の三本和彦様から委員にご就任いただいております。任期については、会則第7条の規定に基づき石塚前委員の残任期間となります。委員の変更については以上となります。

続きまして、会議の成立についてです。

委員数25人に対しまして、出席委員数は、代理出席による議決権のある方を含めまして21人です。

よって、会則第8条第2項の規定により半数を超えておりますので、本会議は成立しておりますことをご報告します。

それでは、これより議案に移りますが、議長は会則第8条第1項の規定によりまして、塚田会長から務めていただきます。

塚田会長よろしく申し上げます。

(塚田会長) 議長を務めさせていただきます。それでは、協議事項へ移ります。

3 協議事項

(塚田会長) 次第の「3 協議事項」、議案第1号「次期上越市総合公共交通計画の策定について」、事務局から説明をお願いします。

(事務局) (議案第1号を説明)

(塚田会長) 今ほど説明のありました議案第1号について、ご意見、ご質問等がございましたら、挙手をお願いします。

(松永剛委員) アンケートの回収率が44.1%と半分にも満たないが、上越市全体の意見を集めることができたと言えるのですか。また、回収率を増やすために、事務局はどのような努力をしましたか。

(事務局) 前回、現行計画を策定するためのアンケート調査をした時も、今と同じような調査内容で、回収率が約46%であり、今回の調査も回収率を4割くらいと想定していましたので、不十分とは思っておりません。また、回収率を上げるための努力としては、公共交通の利用者の減少など、公共交通の現状を説明する資料を同封することで、回答者に関心を持ってもらえるようにしました。

(松永剛委員) 私としては、やはり半分以上回答いただけていないアンケートを、上越市民の声とするのはどうかと思いますが、終わったことなので、次回は半分以上回収できるようにしてもらいたいと思います。

- (事務局) アンケート調査の補完というわけではありませんが、6月から7月にかけて、市内のバス全便で乗降調査を実施し、利用者から個別に意見を伺っております。また、職員が地域に入り、地域の方からも意見を伺っております。これらの調査により聴取した意見とアンケート結果を合わせて、上越市民の声として考えていきたいと思っております。
- (上原委員) 互助による輸送とは、具体的にどういったものでしょうか。
- (事務局) 互助による輸送とは、従来のバス事業者ではなく、地域が主体となって運行時間や本数などを考え、地域の助け合いで利用者を送迎する方式を想定しています。町内会やもっと広い地区の単位で、地域の方が協力して車を用意したり、運転士を出したりして、地域の中で移動に困っている人を病院や買い物先へ送迎する取組を指しております。
- (上原委員) バスの事業者が関係することもあるのでしょうか。
- (事務局) 地域の方が運行時間や本数を話し合いで決めて、運転はバス会社へ委託するなど、事業者と一緒に取り組んでいるところもあります。
- (志村委員) 互助による輸送を公共交通に位置付けるか否か、どのようにお考えでしょうか。
- (事務局) 公共交通は、少なくとも従来のバスや鉄道だけではないと考えています。市民の足を確保するための手段を、広く言えば公共交通ではないかと考えており、タクシー会社が運行する乗合タクシーやスクールバスに一般の方と一緒に乗せて移送するスクール混乗バス、また、今ほど話のあった互助による輸送も公共交通として考えられると思っています。明確に公共交通として位置付けるかは、議論する必要があるかもしれませんが、今の段階では、市民の足を確保する手段をどうするかということを考えており、互助による輸送は、その中の一つの手段ではないかと考えています。
- (志村委員) これからの策定に関する要望ですが、一つ目に、未回答の声なき声があることを念頭に置いて、慎重に進めていただきたい。二つ目に、運転免許を持っていない方の外出手段は、送迎が多数を占めておりますが、互助による輸送を含め、送迎する人の負担が大きいため、どこまで持続できるか保証がない。そういった中で、互助による輸送を進めていくのかということは、公共交通に関わる大きな論点になってくると思うので、全国各地の情報を押さえながら、考えていかないと

けないと思います。

(井藤委員) 公共交通に対する意識の中で、とても重要、どちらかといえば重要を合わせた場合、高齢の方になるほど低くなるのが、少し意外だと思いました。他の市町村で同じような統計を取ったとき、70代と80代で公共交通に対する意識がかなり違って、80代の方が重要性の認識が高いというような結果が出ていますので、その辺りをクロス分析しても面白いと思います。また、運転免許を持っていない方でも、家族がいるかないかで、送迎で移動できるかが違って来るので、運転免許を持っていない方の家族構成とクロス分析すると、意識の違いが分かるのではと思いました。

公共交通の満足度、重要度について、これらは普段公共交通を使っていない人の回答も含まれていると思いますが、実際に公共交通を使っている方で抜き出すと、どういった結果になるのかを見ても面白いと思います。また、70代以上の満足度、重要度についても、運転免許を持っていない方で抜き出すと、どういった傾向になっているのか調べてみてもいいと思います。

お得な乗車券の認知度について、市ホームページで検索したとき、市の広報紙がまずヒットし、その中を見ていくと、乗車券の話がでてくるといった状況ですので、各乗車券の情報を一元化したようなページがあると、認知度が上がるのではと思いました。

(塚田会長) 今ほどの互助の運行形態や他市の事例等、ご存じであれば、参考までをお願いします。

(井藤委員) どういった形態での運行を想定しているのかお聞きした上で、ご紹介できるかと思えますし、道路運送上の問題もあるかと思えますので、相談いただきながらと思っております。

(板垣委員) 高齢者の公共交通の利用が多いという結果が出ていますが、確かに運転免許を返納した方や様々な事情で車を運転することができない方は、公共交通を利用しないといけません。また、これからは、そのような高齢者が増えることから、公共交通は更に大きな役割を担っていくものと思います。ところが、年を重ねていくにつれて関節や足が悪くなり、車両のステップを上げられなくなるなど、乗りたいのに乗れない状況になると思います。私の住む地域でも、今までバスを利用されていた方が、骨折で足を悪くしたことで、バスの乗り降りが不便に感じているようでした。公共交通を利用してもらうために、車両更新の際は、高齢者が乗られるような形にしていただけると、多少利用状況

が良くなるのかなと思います。

私の所属する上越市福祉有償運送運営協議会では、障がいなどで公共交通が利用できない方を対象に、福祉有償運送として、玄関から目的地まで安価な料金で送迎していますし、高齢者の場合は、市から高齢者外出支援のタクシー券が出ています。また、近所の方から買い物に出る際に声かけしてもらったり、家族に送迎をお願いしたりなどの動きもあるようで、玄関から目的地まで直接移動できる機会が多くなりました。ところが、バスの場合は、バス停や目的地まで歩かなければならないので、これからバスの利用が大幅に増えるということはないと思いますが、できるだけ身体事情を考慮していただき、バリアフリーを取り入れた整備をしていただくなど、高齢者に優しい運送を考えていただきたいと思います。

(田村委員代理) バスの車両について、説明させていただきます。「高齢者にとって、バスの乗り降りは大変だ」といったお話はよく聞いております。頸城自動車では、平成10年から低床型のバスを導入する方針で、順次入替えをしており、現在、一般の乗合車両が45両あるうち、3分の2程度の入替えを完了しました。これからも入替えの際には、低床型のバスを導入していきたいと思います。

(事務局) 先ほど、互助のところで説明させていただきましたが、互助というと、地域の方々が助け合っていくということですが、その中で市がどのような関わりを持っていくのか、例えば、市が補助金を出すことで関わっていくのか、一部の経費を市が負担することで関わっていくのか、考えているところであります。地域だけで行うということではなく、市も何らかの関わりをもっていきたいと思っています。また、現在、地域に入り聞き取り調査をしています。「買い物はどこに行っているのか」ということを聞いている中で、地域によっては、商店が車を出しているということも伺っており、買い物で公共交通を使わなければ、通院で使うのか、病院はどこに行っているのかなどの需要を調査しているところであります。

(塚田会長) 他にございますでしょうか。

(発言なし)

(塚田会長) 特にないようですので、議案第1号について、原案のとおり承認することよろしいでしょうか。

(異議なし)

ご異議ないものと認めます。よって、議案第1号は原案のとおり承認されました。

4 報告事項

(塚田会長) 続きまして、次第の「4 報告事項」についてであります。報告第1号「平成30年度公共交通利用促進事業の進捗について」、事務局から説明をお願いします。

(事務局) (報告第1号を説明)

(塚田会長) 今ほど事務局から説明がありました公共交通利用促進事業について、公共交通事業者から補足説明をお願いしたいと思います。まず、夏休み「バス乗車体験」キャンペーン、バスの日フェスタ、水族博物館うみがたりの開館による影響等について、頸城自動車の田村委員代理から報告をお願いします。

(田村委員代理) 今ほど、事務局からお話がありました夏休み「バス乗車体験」キャンペーンについては、報告のとおりでございます。今年で6年目ということで、毎年少しずつですが、利用者が増えているところでございます。来年も工夫しながら、今年以上の利用があるよう取り組んでいきたいと思っております。

続いて、バスの日フェスタについては、9月15日に開催しており、こちらは何年も続けている取組で、小さな子ども連れの家族から楽しんでいただいているところでございます。今年は雨のため、昨年より若干、利用者が減少しましたが、来年も来場者に楽しんでいただけるように、引き続き工夫しながら企画していきたいと思っております。

また、うみがたり開館による影響ですが、先ほど説明いただいたとおり、7月の3連休は道路の混雑等でダイヤに遅れが生じ、皆様にご迷惑をおかけしました。その後、市やうみがたりから混雑対策をとっていただきまして、8月は大きな遅れが無く運行することができました。うみがたりの開館により、夏休み「バス乗車体験」キャンペーンの利用が増え、昨年までは8月の収入が前年割れしていましたが、今年は前年を少し上回るような実績をあげております。課題としては、直江津駅前のバス乗り場が1か所だけで、上り、下りが同じバス停であるため、お客様から分かりづらいといった意見があることから、今後検討が必要と考えています。

(塚田会長) 続きまして、水族博物館うみがたりの開館による鉄道の利用状況に

ついて、初めに、北越急行の大谷委員から報告をお願いします。

(大谷委員) 以前からほくほく線を利用して、十日町市から水族館まで行事等で行く子どもたちがおり、うみがたりが開館したことで、さらに南魚沼市からの利用が見込めたので、往復の割引乗車券にうみがたりの入館料割引を付けた「ほくほく・うみがたり往復切符」を販売しました。開館から8月末までの2か月少々だったのですが、販売枚数としては650枚ほどであり、南魚沼市から上越市へほくほく線を利用して来てもらうよい機会となりました。うみがたりは、通年での誘客ができる施設ですので、これからも様々な乗車券の企画や広告PRを行い、楽しみが一つ増えたということを強くPRして、鉄道利用にもつなげたいと思っております。

(塚田会長) 次に、えちごトキめき鉄道の松縄委員代理から報告をお願いします。

(松縄委員代理) うみがたりの開館に伴い、うみがたりの入館料の割引が付いた乗車券を2種類販売しました。一つは、しなの鉄道及びえちごトキめき鉄道共同企画として、しなの鉄道北しなの線及びえちごトキめき鉄道全線が2日間乗り降り自由の「うみ・やま夏遊びフリーきっぷ」、もう一つは、土日祝日の連続する2日間、えちごトキめき鉄道全線が乗り降り自由の「トキめきホリデーフリーパス」です。双方合わせて602枚ご利用いただきました。乗車券自体は、前年と比べて相当数の売り上げがありましたが、その中でも、うみがたりに乗車券を使って行かれた方が602人ということ。また、8月の旅客収入を見ますと、定期外で利用された方が、直江津駅のみだけですと、前年比6%増となっております。うみがたり効果は大変大きかったと考えております。

(塚田会長) 最後に、水族博物館うみがたりの開館によるタクシーの利用状況について、上越市ハイヤー協会の広幡委員から報告をお願いします。

(広幡委員) うみがたりの来場者数が予想より多い中で、直江津タクシーと頸城ハイヤー直江津営業所では、約2,000台弱のタクシーが稼動し、うみがたりへの行き来で7,500人以上の利用がありました。タクシー利用率は前年と比べると、1.8%くらい増えましたが、売上げからすると、直江津駅からうみがたりへの行き来なので、前年とほとんど変わりありませんでした。

また、渋滞で時間がとられるのが、お盆辺りまで顕著にみられました。3月に開催した渋滞対策会議で、うみがたりの開館の影響により

道路の混雑が予想されましたので、通常カーナビですと、石橋交差点から案内しているものを、バイパスの下源入から真っすぐ港へ行って、荒川橋、船見公園へと分散した形で運行していました。それでも、ピークのときはかなり混雑し、直江津駅から水族館まで50分ほどかかりましたので、裏道を小回りきかせて通るようにするなどして対応しました。

(塚田会長) 今ほど説明のありました報告第1号について、ご意見、ご質問等がございましたら、挙手をお願いします。

(上原委員) 敬老の日の取組について、去年は板倉区のみの実施で、他の区に広がってほしいと思っていたところ、今年は更に多くの路線が対象になっていたので、大変うれしく思います。バスに乗ったとき、子どもが描いた絵が飾ってあると、乗客同士の会話もはずみしますので、とても良い取組だと思いました。また、「なごみちゃん」でバス停を装飾するということですが、去年、子どもたちがスクールバスをラッピングしたときと同様に、今回も宝田小学校の子どもたちにとって、バスを通して地域を見直す良い機会となると思います。

一つ質問ですが、板倉区のデマンドバスの予約代行は、利用者ではなく、協力店舗が電話してくれるということでしょうか。また、バスが来るまでの時間、お店で待つことができるということでしょうか。

(事務局) デマンドバスの予約は、本来利用者本人が予約するものですが、針の商店街では、協力店舗が利用者に代わって予約をし、また、その店舗でバスを待つことができます。

(関谷委員) 上越市内公共交通利用ガイドの配布について、これまでの時刻表と路線図だけではなく、お得な切符や観光情報などを掲載して全戸配布することで、公共交通の利用促進につながるの、非常に良い取組だと思いますし、この他の取組を見ても、非常に工夫、努力されているので、今後も引き続き取り組んでいただきたいと思います。

公共交通利用促進事業ですが、協議会から国庫補助の交付申請をされており、補助項目の中に総合時刻表の作成がございませう。確認ですが、総合時刻表の作成は、議案書に記載のある上越市内公共交通利ガイドの配布と同じものなんでしょうか。また、同じく補助項目の中に路線別の大文字時刻表の作成がありますが、今回の資料から見受けられないので、進捗状況を教えてください。

(事務局) まず、総合時刻表の作成ですが、議案書に記載のある上越市内公共

交通利用ガイドの配布で間違いありません。二つ目、路線別の大文字時刻表の作成ですが、初めに路線別の大文字時刻表とは何かを説明させていただきます。これは、毎年度13区で作成しているチラシで、路線再編のタイミングや3月のダイヤ改正に合わせて、区内全戸に配布している事業で、今年度も実施する予定です。「議案書の中に記載がない」とのことですが、議案書には、現在実施しているもの、または、完了した事業を記載しています。今年度の路線別の大文字時刻表は、まだどの区でも作成していませんので、記載していません。動きがありましたら、今後の協議会で報告させていただきたいと思えます。

(志村委員) 1点目、上越市内公共交通利用ガイドについてです。今までの48ページから今度は124ページとなり、倍以上のページ数で情報もかなり多くなりますが、このガイドがどこにターゲットを絞っているのか、見えづらいです。私の認識としては、従来ガイドは、市民の方に使ってもらおうということだったと思いますが、今回のガイドは、使わなくてはならない高齢者や普段利用しない若い方の他に、新規の観光客を狙ったものと感じます。そうであったとき、例えば、路線図上の施設情報が、誰にとってどこまで必要なのでしょうか。ターゲットによって必要とする施設情報が違うので、工夫・配慮が必要と思えます。

2点目、「謙信ゆかりの地」などの観光情報についてですが、情報を切り取り、ガイドマップや観光向けバス路線図として活用できそうなので、検討してみたいかと思いますが。

3点目、ゼンリンの地図を見ると、市全体の基盤的情報が載っていますので、ゼンリンの地図が、従来の市の地図情報とどのように共有できるか、考えることができないかと思えます。

(事務局) 公共交通利用ガイドのターゲットは、基本的に市民の皆さんに使っていただきたいと考えています。冊子を持ってバスに乗っていただきたい、これを基本にしています。また、今までも転入者の方に利用ガイドをお配りしていましたが、地図情報が豊富になったので、転入者の方への上越市の紹介にも役立つのではと思っています。

2点目の観光情報ですが、今後、観光部局とも協議しながら、どのような対応ができるか考えていきます。利用ガイドは、現在企画の段階ですので、取り入れられる情報は、観光部局とも協議していきたいと思っております。

最後に、市の地図情報との共有ということですが、ゼンリンの緻密な地図を生かし、住宅地図まではいきませんが、地図内に公共施設等

の位置が記載され、利用者が活用できるようにしたいと考えております。

(志村委員) 関連しますと、本ガイド掲載の「謙信ゆかりの地」などの観光情報が、上越妙高駅に必要だと思います。駅の通路にある現行のバス乗換案内だけだと、見てもわかりづらいので、本ガイドのように観光情報を表示した上で乗換案内をすれば、観光客の方にもバスを利用する選択肢が広がると考えます。

(塚田会長) 他にございますでしょうか。

(発言なし)

特にないようですので、ご異議ないものと認めます。

続きまして報告第2号「中郷区乗合タクシーのダイヤ見直しに関する検討状況について」、事務局から説明をお願いします。

(事務局) (報告第2号を説明)

(塚田会長) 今ほど説明のありました報告第2号について、ご意見、ご質問等がございましたら、挙手をお願いします。

(発言なし)

特にないようですので、ご異議ないものと認めます。

以上をもちまして、予定していた議題の審議は終了させていただきます。

ここで、北越急行の大谷委員から、「ほくほく線の運賃改定について」ご報告があります。大谷委員をお願いします。

(大谷委員) 特急はくたかが無くなってから3年半、北越急行は大きな赤字経営が続いており、今後も赤字を脱却する見込みがない状況です。はくたかが走っていた頃の貯金がありますので、当面は現状のままでやっていますが、より永続的に鉄道を走らせていくために、今回、運賃改訂をお願いしました。5月の終わりに運輸局へ申請したものを先週認めていただきましたので、予定どおり12月1日から10%程度の運賃改定を実施する予定です。なお、通学定期については、沿線市町村からのご要望を受けまして、据え置きにさせていただきました。資料にあるとおり、当初から北陸新幹線ができて特急がなくなり、全国の第三セ

クターと同じように赤字経営になると承知し、備えてきましたが、毎年大きな赤字を出しているところです。当然、企業努力も行い、社員、設備のスリム化など行っているものの、なかなか地方のローカル線として厳しいことには変わりなく、この度の運賃改定によりご利用の皆さんにご負担をいただく形になるのですが、できる限り支援いただきながら続けていきたいと、今回10%の値上げになった次第です。資料のとおり、全国の第三セクターは、20年ほど前にできたときから赤字でしたので、必然的に運賃が高い中、ほくほく線はJRと同じ運賃でやっていましたが、赤字になってからは耐え切れないことから、今回運賃を10%増加させていただきました。永続的な鉄道の運行のために、利便性の向上や、お客さまに対するサービス改善に、今まで以上に取り組んでいきたいと思っています。

(塚田会長) 今ほどの説明について、ご意見、ご質問等がございましたら、挙手をお願いします。

(発言なし)

続きまして、「通学に伴う鉄道のダイヤ等について」、各高校の意見をまとめられた上越地区高等学校長会の池嶋委員から発言を求められています。池嶋委員をお願いします。

(池嶋委員) 日頃から安全、安心に通学できており、感謝しているところですが、今日は、特にお世話になっています電車のダイヤについて、各学校から改善していただきたいと要望がありましたので、ご説明します。回答を求めるわけではなく、状況を分かっただき、次につなげていただければと思っています。

登校時については、始業に間に合うようにとのことで、直江津方面のひすいラインは10分程度早めに着くように、また、朝は混雑しますので、車両を2両編成にさせていただくと、安全に通学できると要望がありました。続いて、はねうまラインの下りですが、7時半頃に普通電車が動けるかどうか、検討していただきたいです。新井方面ですが、ここも10分早めに着くと、高田方面の学校の始業に丁度良いので、検討をお願いしたいです。

下校時については、JRへお願いしていますが、長岡から直江津方面の電車の利用が非常に多いので、各駅に停車する電車を用意させていただくと非常にありがたいですし、車両の増結も検討をお願いしたいです。

その他ですが、昨年も豪雪により長岡・直江津間の運休が数日続い

た関係で、高校の授業に大変影響しましたので、代替交通の運行などの検討をお願いしたいと思っております。また、えちごトキめき鉄道開業後の運賃割引について、本当に感謝しているところですが、これが平成32年に終了するとお聞きしていますので、継続していただきたい、また、範囲を拡大していただきたいと考えています。簡単に変えられないと承知していますが、是非考慮していただければと思います。

(塚田会長) 電車のダイヤや運賃割引については、当協議会で対応できるものではなく、各鉄道事業者の協議により決まるもので、この場で回答できるものではないと思われませんが、えちごトキめき鉄道の松縄委員代理から発言があれば、お願いします。

(松縄委員代理) こちらで認識しているところをお話ししたいと思います。まず、ひすいラインの下りについて、直江津駅に8時10分頃着とのことですが、時間を少しずらすと、各鉄道会社との調整が必要になるため、非常に困難である状況です。2両編成の要望ですが、えちごトキめき鉄道では、通勤、通学の時間帯は全ての車両が運行していますので、難しいと思います。次に、はねうまラインの下りについて、直江津駅に7時30分頃着の普通電車を増便することについてですが、生徒が大変多く乗車しているのは認識していますが、全ての車両が出ていることもあり、これにつきましても、対応が難しいところでもあります。上りについてですが、車両の増設は難しく、発着時間をずらすことも、接続の関係で難しいところです。運賃割引ですが、ご指摘のとおり5年間の契約で、JRと10km区間内の乗継割引の締結をしていますが、6年目以降は打ち切りとなっています。これにより、利用者の負担が大きくなりますので、引き続き割引できないか、また、10km区間外の割引もできないか協議していきたいと思っておりますが、相手方あってのことで、どうなるかは分からないところです。利便性の向上を図っていきたく思っておりますが、なかなか対応できない項目が多く、申し訳ないところですが、今回の要望事項を持ち帰り協議して、何か要望に応えられればと思っております。

(塚田会長) 事務局から、市の対応について発言があれば、お願いします。

(事務局) JRへの市の対応としまして、例年、新潟県鉄道整備促進協議会事務局から新幹線・交通政策課へJRに対する要望の照会がありまして、当課で市内の高校等へJRに対する要望について照会しているところでもあります。また、各高校からの要望を協議会事務局へ回答しています。

今年度の要望も協議会事務局へ回答済みであり、今後、協議会事務局からJRへ要望が伝えられる予定となっています。

(塚田会長) 今ほど鉄道事業者の対応等について説明がありましたが、ご意見、ご質問等がございましたら、挙手をお願いします。

(志村委員) 私は元高校教諭であり、校長会の意見は切実な問題だと思います。高校生は、高齢者と並んで、公共交通の主要な利用者ですので、是非検討いただきたいと思います。

なお、昨日、終電近い新幹線で東京出張から帰ってきたとき、車内で「えちごトキめき鉄道は動いておりません」とアナウンスがありました。上越妙高駅で降りる方々が戸惑いながら改札に行くと、改札では「動いています」と案内されました。車内アナウンスと現状が違ったことは今回だけではなく、以前、越後湯沢駅でほくほく線に乗り換えた時も、同様のことがありました。他社と連携するのは難しいと承知していますが、利用者としては困りますので、密に連携していただきたいと思い、この機会にお話させていただきました。

(塚田会長) 他にございますでしょうか。

(発言なし)

鉄道事業者におかれましては、池嶋委員から発言いただいた意見を参考に、次回のダイヤ改正に合わせてご検討いただきたいと思います。

続きまして、えちごトキめき鉄道の松縄委員代理から、なおえつ鉄道まつり等鉄道イベントについて、ご報告があります。松縄委員代理をお願いします。

(松縄委員代理) なおえつ鉄道まつりにつきましては、平成27年の開業以来、3年間続けており、今年は、10月13日の10時から15時まで直江津駅周辺及び直江津運転センターにて行う予定です。10月14日は、日本で初めて鉄道が開業した日で、「鉄道の日」とされており、この日の周辺に各鉄道事業者がイベントを行うことになっています。なおえつ鉄道まつりは、地域の方々や商店街で組織された実行委員会が主催し、えちごトキめき鉄道もイベントをさせていただいております。今年度は、えちごトキめき鉄道の社員から企画を募集し、その中から面白いものを新企画としたものもあります。「気分は運転士」は、現役車両の運転台に乗車して撮影できますし、「列車と力比べ」は、現役車両と綱引き

ができます。また、毎年恒例の働く車の展示や廃品となった鉄道関連部品の販売、えちごトキめき鉄道関連グッズの販売などもあります。鉄道ファン、ご家族で楽しめるイベントとして企画しましたので、多くの方にご来場いただければと思います。

(塚田会長) それでは、今ほどの説明について、ご意見、ご質問等がございましたら、挙手をお願いします。

(発言なし)

委員の皆様も、お時間がありましたら、お出掛けいただきたいと思います。

他にございますでしょうか。

(広幡委員) 前回の協議会で、「高齢者の割引対象者を70歳から75歳に引き上げさせていただきます」とお話しした件について、9月1日から随時、各事業者で実施を始めたところです。車内に周知文を掲示したり、ホームページに掲載したり、新聞も2社ほど取り上げられるなど、広く周知できたことから、年齢引き上げによる混乱はなく、当社に数件、問い合わせをいただいた程度でした。

まだ引き上げていない3社については、いずれも事業認可がおりていますので、今月下旬ないし、11月1日付けの引き上げと伺っております。3社についても周知を徹底していますので、混乱なく進めていけると考えています。

(塚田会長) ありがとうございます。

なお、本日「意見シート」をお配りしていますので、議案の内容等で、何かお気付きの点がございましたら、「意見シート」などを活用いただき、事務局へご連絡くださいますようお願いいたします。

それでは、すべての審議が終了しましたので、議長の任を解かせていただきます。

5 その他

(事務局) 続きまして、次第の「5 その他」に移ります。

事務局から1点ご連絡があります。

次回協議会では、継続協議となっている次期上越市総合公共交通計画の検討に当たり、路線バスの乗降調査の結果や交通空白地とその検討状況についてご審議いただくこととしており、11月の開催を予定しています。詳しい内容は、書面でご連絡させていただきますので、よ

ろしくお願いします。事務局からは以上になりますが、会全体を通して、何かご意見、ご質問のある方は、挙手をお願いします。

(発言なし)

6 閉会

(事務局) (閉会のあいさつ)

以上